

新規事業の検討について

現 状：日本全体で人口減少下にある中、おいらせ町においては人口を維持している現状にあるが、地区別にみると人口減少問題が顕著に表れてきており、行政課題の顕在化が予想される。

目 的：将来的に、深刻化する人口減少問題へ対応すべく、解決策となる事業案（地方創生策）を検討するものである。

テーマ：幸福度アップに向けた地方創生策を考える。

手 法：まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会（課長補佐職員 16 名）にて、ワークショップ形式にて事業検討を行った。

講 師：八戸工業高等専門学校 総合科学教育科 河村信治 教授

実施時期：

No.	時期	内容	部署
1	R3. 8	○令和 3 年度第 1 回戦略会議 →組織会、総合戦略の取組経過、検証部会委員の選出、地方創生に関する意見拝聴	戦略会議
2	R3. 9	○総合戦略進捗状況（KPI）調査	政策推進課
3	R3. 10	○地方創生関連事業の検証	検証部会
4	R3. 11	○新規事業の検討①（第 1 回幹事会） 「SWOT 分析、クロス SWOT 分析の結果」	幹事会
5	R4. 1	○新規事業の検討②（第 2 回幹事会） 「おいらせの戦略を考慮したクロス SWOT 分析の結果」	幹事会
6	R4. 2	○委員からの意見聴取 →検証部会・進捗状況（KPI）・新規事業検討状況の報告・戦略見直し（案）の報告	戦略会議
7	R4. 5 ～6	○新規事業の検討③（第 3 回幹事会）、まとめ	幹事会

SWOT 分析、クロス SWOT 分析の結果（第 1 回幹事会）

～令和 3 年度第 1 回まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会ワークショップまとめ～

【令和 3 年 11 月 22 日開催 幹事:16 名中、15 名参加】

SWOT(「S」strengths 強み、「W」weaknesses 弱み、「O」opportunities 機会、「T」threats 脅威)分析を活用し、町の強みと弱みについて意見を出し合い共有しました。

- ①SWOTマトリクスにより、内部の要因と外部の要因を分析し洗い出す。(SWOT分析)
- ②分析結果をグループで発表し、全体で共有する。
- ③分析を基にし、マトリクスで掛け合わせ、組み合わせし、多面的に分析する(クロスSWOT分析)
(SO戦略、ST戦略を重点的に)
- ④分析結果を全体で共有する。

・SWOT分析

	目標達成の助けになる プラス要因	目標達成の妨げになる マイナス要因
内部要因	S 強み 例) 施策、特産物、自然環境、 地域資源、人材、立地など	W 弱み 例) 地域の課題、制約条件
外部要因	O 機会 例) 国・県の施策、近隣自治体、 地域の資源など	T 脅威 例) 新型コロナ、災害、政策、国際情勢



・クロスSWOT分析

	S:強み	W:弱み
O:機会	強みでチャンスをつかみ取る SO戦略 強み×機会	チャンスで弱みをカバーする WO戦略 弱み×機会
T:脅威	強みを活かしてリスクを乗り切る ST戦略 強み×脅威	リスクに対する弱みの影響を最小限にする WT戦略 弱み×脅威

ワークショップで出た主な意見

<SWOT分析>

S:強み ・自然環境に恵まれている ・土地が安くて住宅が建てやすい(八戸、三沢と比較して) ・高校進学の実績が多い ・市に囲まれている(八戸市、三沢市、十和田市) ・給食費無料化 ・百石高校がある ・奥入瀬川がある ・北寄貝、だるま芋 ・冬場の雪が少ない ・馬の神社がある(気比神社) ・若い世代が多い ・産業の広がり、すそ野が広い ・近隣へのアクセスが良い	W:弱み ・地区によって買い物の利便性が低い ・就労場所が少ない(やりたい仕事、種類が少ない) ・若い世代は多いが、まちづくりへの関心が低い ・長期ビジョンの欠落(単発政策が多い) ・知名度が低い ・空き店舗が多い ・人材がいるようで活かされてない ・宿泊施設 ・住民からの苦情や要望 ・環境美化意識 ・奥ゆかしい人が多い ・学びの場が少ない ・ベッドタウンに徹することができないか。あれもこれも政策や予算が散漫になる ・縦貫路線が弱い ・芸術やエンタメが少ない ・おいらせ町といえば“これ”というものがない
O:機会 ・近隣地域と行き来しやすい ・近隣市に立派な施設がある ・周辺地域に観光資源が多い ・美術館に囲まれている(青森市、八戸市、十和田市) ・高齢化に伴う高齢者人材の活用 ・三沢基地に近い ・農地と居住地のバランス ・サッカースタジアムがほぼおいらせ ・防衛人材需要 ・陸、海、空の交通網 ・奥入瀬溪流が有名 ・八戸圏域、上十三両方に入る ・土砂災害区域ほとんどない	T:脅威 ・観光資源少ないため、通勤するだけの自治体になる ・人口減少に伴う税収の減 ・転入者が減ると人口減になる ・イオンが撤退してしまったら… ・津波・洪水など大規模災害と隣り合わせ ・再処理工場、三沢基地など ・鮭の不漁 ・学校GIGAスクールお金 ・米価の下落

＜クロスSWOT分析＞

SO戦略 ・周辺美術館と連携したアート+おいらせにあるもので町おこし ・駅・空港でおいらせ特産品イベント ・駅・空港から人を呼び込むキャンペーン ・地価やすい⇒施設誘致有利 ・下田駅周辺の再開発 ・非日常を都内住みの人へ提供(カワヨでグランピングなど) ・観光芸術の回遊×砂浜アート・砂浜美術館 ・十和田・八戸美術館と自由の女神像のコラボ ・自衛官増加対策	WO戦略 ・八戸に来た人がおいらせ町に立ち寄る仕組みづくり ・周辺美術館にあやかってアートで町おこし ・職:八戸市、住:おいらせ町 ・児童・生徒によるカーボンニュートラル ・「ベッドタウンおいらせ」
ST戦略 ・おいらせクーポンを近隣の宿泊施設におく ・防災訓練をアウトドア・キャンプ場で行う ・デマンド交通のアピール	WT戦略 ・空き店舗を活用した起業家支援 ・大手企業の撤退に備えた新たな企業の誘致

おいらせの戦略を考慮したクロス SWOT 分析の結果（第2回幹事会）

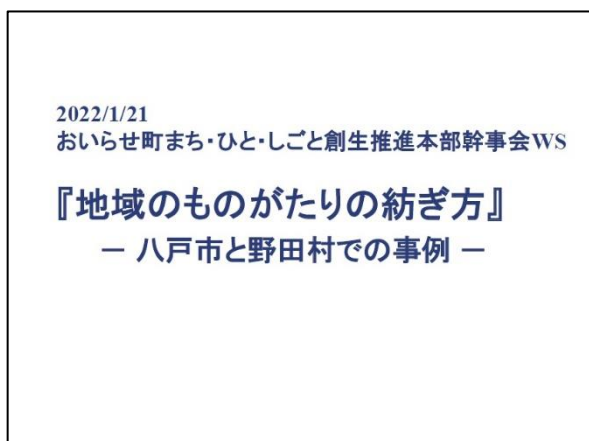
～令和3年度第2回まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会ワークショップまとめ～

【令和4年1月21日開催 幹事:16名中、9名参加】

おいらせ町の戦略(おいらせストーリー)を考えるため、講師の河村教授から「八戸市中心市街地の活性化とストーリーづくり」について、講話いただいた。その後2班に分かれ、ワークショップ形式で再度、町の強みと弱みについて、クロス SWOT 分析を行った。

・河村教授による講話

新規事業の検討にあたっての考え方のポイントや、八戸市の中心市街地での活動、震災復興の携わった野田村での活動などについて、講話いただきました。



＜ポイント＞

- ・全く新しい事業を考えるだけではなく、既存のものをどのようにして、より魅力的にしていけるかという視点で考える。
- ・10～15年のスパンで「地域の物語」を作っていく。
- ・求心力があるところには人が集まる。
- ・まち歩きは、お互いの共感をうみ、歩くことで新たな気づきがある。
- ・魅力的な地域づくりをしていけば、おもしろい話(事業、活動など)が舞い込んでくる。
- ・様々なものがフックになり、つながっていく。
- ・良いアイディアは、ぽっとでるものではなく、いろいろなものを紡いで洗練されていくことで生まれる。

・クロスSWOT分析の結果

A 班

	S:強み	W:弱み
O:機会	SO戦略 ・安全な町をつくり、人を集める(人口を増やす) ・ベッタウンになるため、災害に強い町づくりを目指す ・町内オブジェウォークラリー	WO戦略 ・中野平に役場、公共施設を集約し、住宅街をつくる ・小さい事業はいらない
T:脅威	ST戦略 ・コンパクトシティ推進で人口増を目指す(人口減×好立地を生かす)	WT戦略 ・公民館を活性化する

B 班 (補足・・・強みでチャンスをつかみ取る「SO 戦略」を中心とした分析を行った。)

	S:強み	W:弱み
O:機会	SO戦略 ・サイクリングロード ・いちよう公園 ・下田公園 ・トレイル(欧米人の参加) ・奥入瀬クリーン ・今ある物事(事業)の付加価値を高める ・下田駅周辺 ・自然遊歩道 ・百石本町関係者がいる ・防災×キャンプ場 ・十和田湖×奥入瀬川	WO戦略
T:脅威	ST戦略	WT戦略

新規事業の検討のワークショップ（第3回幹事会）

～令和4年度第1回まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会ワークショップまとめ～

【令和4年5月18日開催 幹事:16名中、8名参加】

各自事業を検討した後、班に分かれ、ワークショップ形式で1つの事業を検討した。事業の検討は、第1回、第2回ワークショップで実施したSWOT分析等の結果を参考にした。

●ワークショップの内容

①今までの振り返り(第1、2回幹事会のワークショップの振り返り)

②個人で事業検討

前回の振り返りを念頭におきながら、各自で事業を検討し、事業シート(個別)を作成した。

③検討した事業ごとにグループ編成

個人で検討した事業を分野ごとに、次の3つのグループに分けた。

【Aグループ】・・・アート(おいらせらしさ、周辺都市との関係)

【Bグループ】・・・起業・就業支援(町内の経済開発可能性、にぎわい中心)

【Cグループ】・・・アウトドア(近隣の資源との相乗、アクティビティ)

④グループで事業検討

グループごとに、個人で検討した事業を基に話し合いを進め、さらに事業を検討し、事業シート(グループ)を作成した。

⑤班ごとに発表、エスキス

グループで検討した事業を発表し、講師や他グループと意見交換等を行った。※エスキス…最終形になるまでのアイディアの出し合い、意見交換。

⑥事業シート(個別・グループ)のブラッシュアップ

最後に、事業シート(個別・グループ)の磨き上げを行い、事務局へ提出した。



▲ワークショップの様子



▲グループで事業検討(Aグループ)



▲班ごとに発表(Cグループ)



▲班ごとに発表(Bグループ)

●グループで検討した事業

グループ	A	B	C
事業概要	アートを通じた市民交流（参加型イベント） ・町中アートをめぐる ウォークラリー ・定期的なアート作り 体験会 ・アートマップ作成	町をPRしてくれる YouTuberを支援	アウトドア体験型のふるさと納税返礼品の開発 ・カワヨ〜キャンプ+BBQ ・下田公園、いちょう公園 →グランピング商品化
事業の種類	新規事業	新規事業	既存事業(磨き上げ)
参考したクロスSWOT分析	SO 戦略 →十和田、八戸美術館と 自由の女神のコラボ		SO 戦略 →非日常を都内住みの人 へ提供
予想できる事業効果	・市民交流 ・観光客の誘致 ・今ある資源の活用	・町に興味をもってもらうこ とで、観光・定住促進につ ながる。	・ふるさと納税の増加 ・来訪する人の増加 ・魅力の発信

●個別に検討した事業

・新規事業

事業概要	新規就農支援事業 企業と連携し、町民を新規に雇用した企業へ人件費の一部を助成することによって、町民の就労場所を確保する。	YouTube 動画配信事業 ・市に比べると土地が安く 利便性が良い、自然環境に恵まれているのは、人口増の要因の一つ。 ・町の魅力・利便性の良さを定期的に動画配信し、おいらせ町をPRする。	桜いっぱい事業 ・下田公園、(展望台東側)斜面部分に芝桜を植え付ける。 ・町内、芝桜を植えている家庭も多く、株(苗)を分けてもらい、苗代のコスト削減に努める。 ・春まつりの代替イベントとして、検討する。
参考したクロスSWOT分析	弱みをカバーする事業 ・就労場所が少ない ・人口減に伴う税収減 ・高齢化に伴う高齢者人材活用	強みを活かす事業 ・土地が安く住宅が建てやすい。 ・市に囲まれ近隣のアクセスが良い。自然環境に恵まれている。	SO 戦略 ・下田公園
予想できる事業効果	・税収の確保 ・労働力不足の改善 ・町の移住者増	・町に興味をもってもらうこ とで、観光・定住促進につ ながる。 ・企業とコラボすることで宣 伝効果、収益アップ。	・下田公園への来園者増加

・既存事業(磨き上げ)

事業概要	パブリックアートで見 に来る人を増やす 既存のいちょう公園の 自由の女神、サーモンパ ークなどのパブリック アートを SNS 等で PR	アウトドア×防災訓練 町で実施している防災訓 練にアウトドア要素を追 加する。
参考したクロス SWOT 分析	SO 戦略 ・ウォークラリー	SO 戦略 ・防災×キャンプ場
予想できる 事業効果	・SNS で話題(町の PR)	・子どもや家族連れが防災 に興味をもつ。 ・キャンプ場の PR になる。

●新規事業の検討への意見

意見	回答	担当課
ワークショップについてだが新規事業の考え方を勉強するためのものなのか、ワークショップから新規事業を検討し、実際に具体的な事業実施につなげるためのものなのか位置づけがよくわからなかった。アイデアレベルから次のステップにあげていくためには、段階的な作業フロー、アイデアを形にするための財源、トップのバックアップ等が必要なのでそこまで設計して次につなげていただきたい。	ワークショップから新規事業を検討する形式となります。現在はアイデアレベルであるため、今後は、段階的な作業フローやアイデアを形にするための財源等も協議していきます。	政策推進課
・とても効果的なワークだと感じる。町の強みを活かした戦略をたて、弱みを少しでもカバーできたらと考える。今ある施設を有効活用できたらもっと魅力度が高まるはず。 ・大規模な老人福祉施設をつくり都会から人を集め小さなまちをつくり、そこで雇用を生む。 ・良い活動だと思う。人口増加に惑わされずに多方面から検討すべき。現状、出生率が上がっていない以上は、人口が増えても他市町村から転入、地域全体をみると人口の奪い合いをしているだけ。人口を増やす・減らさないための施策も大事ですが、人口が減っても大丈夫になるような施策を検討していただきたい。	従来新規事業の検討は、これまで単独の課や関係課で行ってきているため、全ての課に係る新規事業の検討は、初めての取り組みです。ご意見については、今後の幹事会運営の参考にさせていただきます。	政策推進課

意見	回答	担当課
他の市町村と比較して良いところ、不足しているところを洗い出し、その理由は何かを明確にし、あれもこれもではなく、やる事とあきらめる事を明確にして対策に繋げていくべきではないか。	今回のワークショップでは、各課の課長補佐が集まり、町の長所や短所を上げながら、事業を検討しました。現在町で実施している、事業の継続・廃止または見直しを検討する「事務事業評価」の結果等も参考にし、今後の協議を進めていきます。	政策推進課